

緑のふるさと協力隊

ふるさとを語る

「緑のふるさと協力隊」とはNPO法人「地球緑化センター」が行っている事業の一つで、各自自治体・団体の受け入れにより山村で1年間生活し、農業などの手伝いなど様々な活動をしていきます。掛合町では、平成12年度からこの事業に取り組み、毎年協力隊を受け入れてきました。平成16年度は須藤陽介さんが滞在され、様々な生活体験やまちおこしイベントへの参加などの活動をしてきました。

ここでは、1年間の取り組み状況や感想などを須藤さんへのインタビューを通じて紹介します。

Q&A

Q どのような体験をされましたか？

田植えから、ハウスでの花の栽培、森林組合での測量や製材等のお手伝いをさせて頂きました。

また、青空市での当番の時は、地元の方やお客さんと話をしたり、出荷される方のところへ訪



問したり。その中で地元のドライブマップがあると便利かと思いついた。最近では、炭焼きや味噌づくり。そして、祭りでは芝居に参加したり、まわしを締めて相撲をとったりもしました。

Q これまでの経験で学んだことは？

ひとつのことをすると、そこから不思議と輪が広がっていく。縁ってすごいなーと思いました。こちらへ来て、人生とは人とのふれあい、つながりだということ学びました。

Q まちおこし・地域の活性化に必要なことは？

「語り合う」ことではないかと思えます。残念ながら1年間活動をしてきて「自分たちの住む所をこういう風にした」と



いうような話をあまり聞きませんでした。

地元をこうしたいという夢があり、その夢や希望を語り合ってもいいのではないのでしょうか。理想ですけど。

Q 第2のふるさと「雲南市」へのメッセージ

1年の中で農業の厳しさも多少知りました。確かに都会は楽です。でもそれだけ。ここには感動があります。芽が出たときの喜び、台風による悲しみ、収穫への感謝な



ど。都会にはない、生きる喜びを感じられる場所です。今まさに「地域資源を活かす」ということが叫ばれています。若い方は特にですが、ふるさとの事を知ること、地元にもっと愛着がわくのではないのでしょうか？おじいさん、おばあさん、孫に語ってあげてください。終わりに、お世話になった方々へ「だんだん、ありがとうございました」



今年度のNEW隊員紹介



中井展子さん
自然の中で体を動かすのが好きと言う中井さんの趣味は登山とサイクリング。

今年で5人目となる隊員には中井展子さん（大阪府出身）が着任。中井さんに抱負など聞いてみました。

Q&A

Q ①応募のきっかけは？

自然が大好きです。田舎で暮らすことへの憧れもあり、応募しました。

Q ②ズバリ抱負を！

自給力をつける！農業の手伝いをさせて頂きたいので、私が毎日食べているものが、どんな人たちにどのように作られているのか知りたいと思っています。私もどこかお借りして何か作ってみたいです。

Q ③みなさんへ一言！

雲南市に来ることが出来てうれしいです。やる気と体力はあります。自分らしく精一杯がんばります。どこかで会ったら気軽に声をかけてください！